

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453
法人名	夕風会
事業所名	グループホーム 夕なぎの家
所在地	岡山県岡山市東区宿毛745-3
自己評価作成日	R4.9.15
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター
所在地	岡山市北区松尾209-1
訪問調査日	令和4年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人夕風会の広い敷地内に、特別養護老人ホーム、ディケアー、ヘルパーステーション、ケアハウス、ディサービス、老人保健施設、道を隔てて宿毛診療所があり総合的なケアが受けられる。ケアハウス棟の4階に有ることで眺めも良く、小高い丘には桃畑や桜並木、眼下に広がる田園風景と見ていて飽きない。居室の南には屋上庭園になっており畑やプランターで季節の野菜や花を育てている。開放的な明るいホーム内で一人ひとりの思いに寄り添いながら、のんびりゆったり一緒に楽しくをモットーに支援させていただいている。

社会福祉法人夕風会は地域の保険・福祉を担い、緊急時は地域住民の避難場所に指定されています。同敷地内のケアハウス棟4階に事業所があり、地域密着型サービスの拠点として地域に開かれた活動に取り組んでいます。
また、福利厚生、キャリアパス制度が充実しており、職員は働きやすい環境にあります。入居者一人ひとりの「その人にとっての幸せは何？」を基本に「のんびり」「楽しく」「笑顔で過ごす」を大切に入居者の思いに寄り添った支援を心掛け取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タ風会の理念に沿い、職員同士で情報を共有し実践につなげている。1回でも多く笑顔をひき出す。	タなぎの家の理念は「のんびり」「楽しく」「笑顔で過ごす」とシンプルで、入居者が住み慣れた地域でその人らしさを尊重されながら、過ごしている様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1年に1回の夏祭りがあったが、コロナ禍で今は中止となっている。実習の訪問、歯医者、精神科医主治医の訪問。	コロナ禍前は地域住民のボランティアによる行事があり活発に交流をしていたが、コロナ禍になってからは、特定の訪問者と交流しています。中でも外国の実習生に入居者は日本語を教えるなどして交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岡山市東区地域包括支援センター、地域連携室と連絡を取り地域の情報を収集している。また、居宅とも連携を取り地域の方々の入所も多く地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い行事や取組等の報告を行っている。地域の方、市の担当者から助言を頂き、職員会議にて話し合いケアにいかせるよう努力している。	地域代表や包括支援センターを交え、事業所の実情を報告し、地域の困りごとを話題にする事で協力関係を深め、そこでの意見をサービス向上に努めている様子が窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は市の担当者に連絡し協力を得ている。地域包括支援センターに相談し地域の情報を得ている。	日頃より市町村とは連絡を取り、特に運営推進会議を通じて、地域の問題や事業所が出来る事はないかなど協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の事故防止委員会、隔月開催の身体拘束委員会に出席し職員に周知徹底を行っている。しかしながら玄関においてはシステム上電子施錠となっている。	定期的に研修し職員同士話し合い、又、気がついた時、お互い注意喚起し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長より、権利擁護やコンプライアンスルールについての講習がある。またメディアで取り上げられた事案等、職員間で話し合う機会がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用する入居者がおらず学ぶ機会を逸している。外部研修及び内部研修を行い理解に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけ理解納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお手紙、電話で状況をお伝えし、意見要望などおききしている。有れば真摯に対応している。	家族から意見・要望を聞く機会を設け、その意見を職員間で話し合い対応して運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で日々の意見交換出来る雰囲気を作っている。また職員会議でも意見を出し合い実践に繋げている。	就業についてのさまざまな事柄を、管理者や施設長に相談しやすい環境作りに努め、反映するように取り組んでいる様子が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生、キャリアパス制度が充実しており、代表者、上司は向上心を持って働けるよう配慮頂けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を初め、資格習得の為の講習や報奨金など、職員を育てる為のシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流は現在はないが外部研修を通じ情報こうかんはある。待機者、入退去時等、情報交換がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と意見交換を行い趣味、性格等の情報収集を行い、今までの生活と大きく変化すること無く過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族の要望、不安等を傾聴し真摯に対応することで信頼を得られるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様にとって今一番必要な支援は何かを見極め他職種と情報交換を行いながらサービスが提供されるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間の中で、同じ時間を共に生活しており協力し助け合いながら関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、家族の思いをくみ取りながら行事参加、外出等の色々な形でケアに活かされるよう努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ階の友人が尋ねてきたり敷地内に入所の配偶者に会いに行ったりしている。(今はコロナの為中止)	ホームでの生活が馴染みの環境として定着している様です。又、外出受診の際、地域の人と会えば交流出来るよう配慮に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備、洗濯畳み、菜園活動、またレクリエーションを通じ孤立しないよう支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の関係機関に落ちつくまで連絡は取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人、お一人、また家族の希望に寄り添いカンファレンスや職員会議で話し合い支援に繋げている。	本人、家族の希望を現況と照らし合わせながら可能な事を模索し、日常の表情・所作・入浴時の会話を大切にしながら思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴や生活環境を把握しこれまでの経過に即したものとなるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った暮らし方が出来るようカンファレンスを行い適切な支援が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族にとって今一番必要な支援は何か見極め、家族、主治医、他職種の意見に基づき介護計画を作成している。	多職種の意見を取り入れながら職員同士のカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めています。	これからも本人・家族・必要な関係者が「本人が幸せと感じる」計画を話し合い、リスク回避(職員本位)を優先した介護にならないよう取り組んでいかれることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな気づきも職員間で共有し、介護計画に活かし、改善点があれば見直していくよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の多様なニーズに対し、他職種の助言などにより、柔軟、かつ丁寧な対応が出来るよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出など地域資源活用し気分転換を図るなど豊かな暮らし作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、主治医、事業所の良い関係作りが出来ている。これからも連絡を密に行い適切な医療が受けられるよう努力する。	専門医（精神科・歯科など）の受診も定期的であり、入居者の病状の変化などは、医師から直接家族に適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による感染予防の指導や助言、急変時の対応など協力体制ができており、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように協力病院と連携をとり、情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や職員、主治医、栄養士間で話し合いを重ね、看取りに近いところまで支援を重ねている。	看取りの体制が整っていないので、ホームで出来る終末期の対応に努め、職員間・家族と入居者の常態を共有し変化があった場合、医師より家族に説明し医療機関での対応を方針として共有し、本人・家族に安心して貰えるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急研修を受けたり、主治医の助言や指導を常に心にとめて危機管理意識の徹底を図るよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。また3月11日は災害避難訓練を行っている。	同じ棟の2、3階にあるケアハウスと一緒に訓練を実施。消防訓練ではベランダへ避難し、はしご車が来るという手順を入居者と一緒にシュミレーションして身につくよう取り組んでいます。	地域の緊急時の避難場所に指定されている事からも、運営推進会議で課題として取り上げ、地域の方々へ災害避難訓練参加を呼びかけ一緒に実施されることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時のノック、話の内容を大きな声でしないで、戸やトイレのカーテンなどきちんと閉める様にしている。	馴れ馴れしさと親しい関係の違いなど、入居者一人ひとりの生活歴を把握し、職員間で共有し言葉掛けや人格の尊重に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により自己決定が難しい入居者もおられるが、声掛けやスキンシップ、表現から読み取ったり、寄り添い傾聴するなど自己決定が出来るような支援に努めていく。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合った支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の理美容、爪切り、髭剃り、服選びなどにもその人らしさが出来るよう支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入れ歯の調整や誤嚥体操を行い盛り付け、配膳下膳を職員と一緒にするなど食事が楽しみになるような支援を行っています。	季節に応じた食材で季節感を、また郷土料理などを企画し、一人ひとりの嚥下状態に合わせて食事を楽しむことの出来る支援に取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態など考慮し主治医や栄養士、他職種の助言を取り入れながら支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の受診を受け指導、助言を頂きながら口腔内の衛生に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のペースで排泄を行っているが尿意、便意が難しい入居者には時間を決めて排泄を行っている。	日中は失禁時の反応に注視し対策を講じており、夜は入居者の安眠を優先し見廻りに徹した支援を行なっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、繊維質の食品など、栄養士と相談しながら行っている。また運動、下剤の服用など主治医に相談しながら早めの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否される入居者もおられるが、入浴が楽しめる様に配慮している。	着脱が面倒で入浴を拒否する人が少なくありません。対応する職員を替えたり、時間をずらしたり、理由づけ(医師の診断など)を説明し、納得して入浴できるよう個々にそった支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自然に就寝準備、就寝へと繋げる様に支援したり、眠前薬の使用などで安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適宜、薬の見直しを主治医や家族と共に行っている。本人様から薬の説明を求められた場合には説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動、個人外出、季節の行事などを行い喜びが感じられるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人敷地内の散策や家族との外出。また公民館の行事参加などがあったが現在コロナ禍で中止となっている。出来るだけ外出し、気分転換出来るよう努めている。	コロナ禍でなかなか、日常的に外出することは難しいですが、季節ごとの行事として近隣の神社に行ったり、お花見にでかけるなど戸外に出かける支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名がお金を所持している。買い物など希望があれば家族に了解を得て職員と買い物に行っているが、現在コロナ禍で出来ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から要望があれば電話を掛けたり、繋ぐ事も自由出来る。またご家族様、親類の方との手紙のやり取りがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	棟の最上階に有り広々としたベランダの野菜や花をいつでも見ることが出来る。共有スペースには個人の作品が飾られている。	共用スペースは居間と食堂があり、入居者は好みの場所で寛ぐことができます。また広々としたベランダの向こうには地域の田園地帯が見下ろせ、季節の移ろいを光り、臭い、耳で感じることができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で好みの席があり入居者様同士で談笑されたり活動している。心地よい空間を作れるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具、テレビ、お位牌などを置き、本人様が心地よく過ごせるように努めている。	安全に配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、案内の貼り紙の工夫など安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。		